



農業総合センターまつりで有機農産物を販売！

農業総合センター有機農業推進室 会津農林事務所農業振興普及部

第8回福島県農業総合センターまつりが、9月7日（土）、8日（日）の両日、郡山市の同センターで開催され、県内から2つの有機生産組織が出展しました。二本松市から「オーガニックふくしま安達」、喜多方市から「喜多方ゆうきの和」の組織会員が、2日間にわたり有機農産物の販売を行いました。

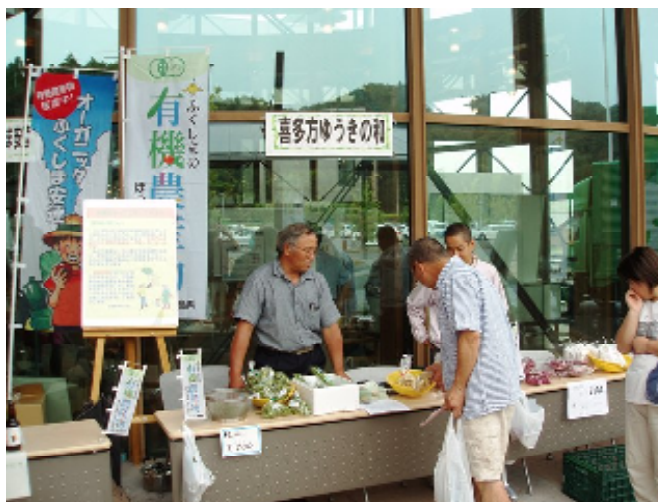
お米をはじめ、キュウリ、ミニトマト、ピーマン、トウモロコシ、アスパラガス、長ネギ、タマネギ等の定番品目のほか、落花生、メロン、紫サツマイモといった珍しい品目や、うどんやニンジンジュース等の加工品、あわせて約20品目の有機農産物・加工品でブースがいっぱいとなりました。

会場には、有機農業を紹介するパネルを展示し、出展したグループの紹介パンフレットや有機農産物に関するパンフレットを配布し、各グループの取り組みや有機農産物の安全性をPRしました。

来場者には、有機農産物の安全性に加えて、おいしい食べ方についても紹介しました。特に塩茹でしたエダマメは試食が好評で、味わってから購入されるお客様も多数おられました。対面販売により交流が図られ、有機農産物や生産組織の取り組みを知っていただく良い機会となりました。



オーガニックふくしま安達の販売風景



喜多方ゆうきの和の販売風景

本年度の有機農業チャレンジほの紹介

農業総合センター有機農業推進室

本年度の現地実証ほは、下表のとおり10箇所で開催しています。

水稲の課題は、県南・会津・南会津の3箇所で開催「有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認」ということで、ボトキラー水和剤を使った効果確認試験を行いました。この資材の有効成分は、バチルス菌という自然界に存在する微生物です。予め散布しておくことで、バチルス菌が植物体上で定着・増殖し、病原菌を寄せ付けずに済みます。葉いもちの発病は、無散布区よりも少なく、効果が認められました。散布時期が数日早ければ、さらに高い効果が得られたものと思われまます。

また双葉郡では、水稲のアイガモ栽培で使ったアイガモを、飼育直し（水田から引き上げた後に、飼育舎で飼料を与えて肥育）することで、アイガモ肉の安全性を実証しようとしています。

野菜類は、新たな品目や作型の導入が実証のねらいになります。

イチゴについては、県内では有機栽培の事例がなく、防虫ネットや粘着テープなどの防虫資材や有機JAS適合防除資材を利用した病虫害防除対策による栽培の実践と検証を行っています。

二本松市の3箇所は、被覆資材による保温と生物農薬による病虫害防除を行うことで、秋冬栽培の現地適応性を検証します。

会津の2箇所は、コカブが有機肥料の効果の実証を、ブロッコリが有機JAS適合防除資材による病虫害防除体系確立を目指しています。

水稲を除き、現在実施中です。今後、追って経過をお知らせいたします。



ボトキラー水和剤の散布（白河市東）



いちごの定植後（二本松市太田）

表 本年度の有機農業チャレンジほ一覧

No.	導入作物	試験内容	設置場所
1	水稲	有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認	白河市東上野出島
2	水稲	有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認	耶麻郡猪苗代町大字磐里
3	水稲	有機JAS適合防除資材によるいもち病防除効果の確認	南会津郡只見町大字梁取
4	水稲	アイガモの飼育直し	双葉郡川内村大字上川内
5	イチゴ	新たな品目導入 生物農薬等による害虫対策	二本松市太田
6	スナップエンドウ	新たな作型導入 秋蒔き栽培の技術確立	二本松市太田
7	ソラマメ	新たな作型導入 秋蒔き栽培の技術確立	二本松市上長折
8	ハクサイ	保温資材と防虫ネットの被覆による害虫防除効果と生育量の確保の検証	二本松市戸沢
9	コカブ	有機肥料による栽培実証 防虫ネットによる害虫対策	会津若松市石堂町
10	ブロッコリ	生物農薬の体系的な病虫害防除対策の確立	喜多方市塩川町三吉

『環境と共生する農業』の新マーク利用を推進しています！

環境保全農業課

福島県では、環境と共生する農業をPRするため、「有機農産物」、「特別栽培農産物」、「エコ農産物」のパッケージなどに貼るマークを作成しました。

マークはそれぞれの農産物に合わせた3種類（下記参照）で、県のマスコットキャラクター「キビタン」や「キビタンファミリー」が空を飛んでいるデザインとしました。

このマークは、該当する農産物を生産される方や、出荷・販売される方（団体等）であればどなたでもご利用になれます（シール等作成費用は自己負担）。

利用したい方は、福島県環境保全農業課（下記連絡先）までご連絡ください。なお、申請書は当課のホームページからダウンロードできます。

連絡先

福島県 農林水産部 環境保全農業課

電話024-521-7342（直通） FAX024-521-7938（直通）

メール kankyuhosen_nougyou@pref.fukushima.lg.jp（直通）

ホームページ <http://wwwcms.pref.fukushima.jp/>（環境保全農業課を検索）



新たに2名が有機JAS認定を取得！

農業総合センター有機農業推進室

今年9月、新たに2名の方が認定機関『福島県』から有機JAS認定事業者として認定を受けました。

二本松市太田の「ジオファーム」（梅谷勝義氏）は、今までも『オーガニックふくしま安達』の会員農家として活動してきました。また、有機農業チャレンジほとして実証展示を引き受けていただいています。

喜多方市山都町の「鈴木農園」（鈴木隆氏）は、『喜多方ゆうきの和』の会員農家です。アスパラ畑が認定されています。

次号で二人の詳しい紹介を行います。

有機農業志向者のために視察研修を実施！

～農業短期大学校研修部・有機農業先進地視察研修の実施～

農業総合センター有機農業推進室

9月12日（木）、農業短期大学校研修部の新規就農者研修（有機農業コース）の受講生を対象として、会津方部での有機農業先進地視察研修を行いました。

当日参加した受講者は3名でした。

研修先は、①喜多方市山都町の『喜多方ゆきの和』事務局長の大江一男さん、②会津美里町の『会津自然塾』代表の鹿野義治さんの2か所で、施設やほ場を見学し、各々からこれまでの有機農業への取り組みや現状、これからの取り組み等について説明を受けました。

大江さんからは、①有機栽培における土づくりの重要性、②多品目栽培の販売・栽培面での利点、等について話していただきました。

鹿野さんからは、安全・安心に加えて安定が必要であることを話していただきました。そのためには、①少量多品目栽培で危険分散、②消費者等も加えたグループ化で認識の共有、等を図ることが有効である、とのことでした。

参加した受講生は、積極的に質問をしながら、真剣にメモを取っていました。



大江さん（右端）のほ場にて話を伺う



鹿野さん（左）から説明を受ける

《お知らせ》

○ ふくしまオーガニックフェスタが開催！

11月23日（土・勤労感謝の日）に「ビッグパレットふくしま」において、『**ふくしまオーガニックフェスタ**』が開催されます。

内容は、有機農産物・加工品等を販売する**オーガニックマーケット**、有機野菜を使った料理が楽しめる**コミュニティカフェ**、『放射能と暮らしを考える』と題した**シンポジウム**やパネル展示が行われます。

また、歌やトークのライブショー、ミニシアターなどのイベントも行われます。お問い合わせは、**フェスタ実行委員会**へお願いいたします。

TEL:0243(24)1795 E-mail:fes@farm-n.jp